

☆ 視点を変えれば、世の中は変わる。



☆ Rethink=視点を変えて考える

ちょっとした問題や課題に出会ったとき、視点を変えて本質に気づくことで、前向きな行動につながります。

Rethink PROJECTは、JTがパートナーの皆さまとともに行う地域社会への貢献活動の総称です。

私たちは、心みたされるよりよい明日の実現に向けて、Rethinkをキーワードにこれまでにない視点や考え方を活かしながら、地域社会の様々な課題に向き合っていきます。

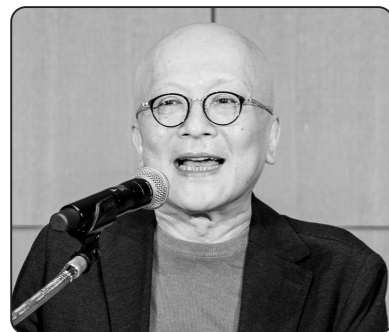
★

そしてRethinkフォーラムは、地域住民、地域企業、自治体の方々とともに地域社会の課題解決に向けてディスカッションをする場です。

みんなで地域の未来についてRethinkしてみませんか？



「Rethinkフォーラム～視点を変えれば、世の中は変わる。」(京都新聞主催、京都府、京都市など後援、Rethink PROJECT協賛)が11月6日、京都市下京区のホテルグランヴィア京都で開催され、約200人が参加しました。第1部は編集者・評論家の山田五郎さんが「観に行く街から住む街へ」と題して講演しました。第2部では松井孝治京都市長と井上章一国際日本文化研究センター所長が加わり、「Rethink京都～『突き抜ける世界都市京都』を目指して～」をテーマにパネルディスカッションが行われました。要旨を紹介します。



やまだ ごろう
山田五郎氏 (編集者・評論家)

演題：観に行く街から住む街へ

1958年東京都生まれ。上智大文学部在学中にオーストラリア・ザルツブルグ大に1年間遊学し西洋美術史を学ぶ。講談社「Hot-Dog PRESS」編集長、総合編集局担当部長などを経てフリーに。現在は時計、西洋美術、街づくりなど幅広い分野で講演、執筆活動を続けている。

★ 若者が躍動する京都を再び

★ 70年代は最先端都市

私にとって京都はどのような街か、そこからお話しします。1970年代、中学・高校という多感な時期を大阪で過ごした私は、美術展やコンサートを目当てに何かと京都を訪ねていました。当時の京都は、京都大学西部講堂をはじめライブハウスも多数あり、外国人ミュージシャンも頻りに来日するなど、音楽シーン一つ取っても、日本中のとがった若者が憧れる、私が背伸びして見るような最先端都市でした。

当時を振り返ると、70年代の世相は、大阪万国博覧会開催(70年)までの「働きづめ」志向から「モーレツからビューティフルへ」の名コピーが示す流れへと、大きな変化がありました。ファッション雑誌「anan」や「non-no」が創刊され、「アンノン族」と呼ばれる若い女性たちが登場。折しも旧国鉄が展開した旅キャンペーン「ディスカバー・ジャパン」と相まって、京都は「アンノン族」が好む旅先としても注目の的となりました。

一方、80年代のバブル期に入ると、体制に批判的ないわゆるアングラ文化を信奉する若者の姿は次第に消えてゆき、北山通あたりにはブランド品を扱う店舗が居並ぶ、東京と変わらない光景が見られるようになりました。

私が高級婦人誌「SOPHIA」の編集に携わっていた90年代は、風情ある京町家や料亭など「和」の街・京都の神髄を取材で垣間見せていただきました。2010年代にはBS日テレのバラエティー番組「ぶらぶら美術・博物館」に出演し、10年かけてようやく有名寺社の取材許可を得られるという、京都の奥深さも実感しました。

★ 若者定着を妨げるオーバーツーリズム

今日、私が申し上げたいのは、若者が生き生きと過ごす70年代の京都を取り戻したいということです。

現在、京都はコロナ禍前の観光客数を既に上回り、日々混雑を極め地価高騰も激しくなっています。ホテルやマンション開発が進む中で地上げが横行、約4万軒の町家が1日3軒消滅している現状は見過ごせません。北野天満宮社家を由来とする重要文化財級の「川井家住宅」は、2017年制定の「京町家条例」が間に合わず、取り壊されてしまいました。

外国資本の手も伸びています。町家やホテルだけでなく、お店や交通手段にも外資が進出し、せっかくの観光収入が海外に流れています。WTO(世界貿易機関)協定であるGATS(サービスの貿易に関する一般協定)に外資規制事項を入れなかったからです。外資誘致に目がくらんだ「亡国の致命的ミス」と言わざるを得ません。土地高騰は家賃にも影響し、学生はもちろ

ん若い世代が京都から離れつつあります。

★ 富裕層を中心ターゲットに

私は以前から「量から質へのRethink」を訴えてきました。観光も、客数より客単価の向上を目指すべきだと。そのためには日本が苦手とする富裕層向けの観光ビジネスをもっと充実させる。極論ですが、京都は富裕層しか来られないくらいでちょうどいいのではないのでしょうか。そこで得た利益を若者たちを中心に還元するのです。

80年代に東京・原宿や表参道で次々と独自カルチャーが育まれたのは、家賃が安く若者が集まったからです。美術系大学が4校もあり、コンテンツ産業も充実している京都で、再び若者文化が輝くことを願っております。



テーマ Rethink京都～『突き抜ける世界都市京都』を目指して～

パネルディスカッション出演者 山田五郎氏(編集者・評論家)、松井孝治氏(京都市長)、井上章一氏(国際日本文化研究センター所長)、植村なおみ氏(フリーアナウンサー)

モデレーター

植村 まずは一言ずつお願いできますでしょうか。
松井 私は中京区の生まれですが、首都圏在住期間も長く生粋の京都人の資格には欠けるかもしれません。ただ、逆にそれだけ相対化して京都を見て気付く面はあります。
井上 ある書店では、私が書いた「京都ざらい」の横に「本当は好きなくせに」とPOPが添えられていました。山田さんのお話は大変懐かしく若返った気がします。
山田 私だけよそ者でアウェー感が否めませんが、まちづくりに大切なのは「若者・よそ者・ばか者」といわれ、後者二つに当てはまる私が何かお役に立てたらうれしいです。

多数の唯一無二の能力が認め合う

植村 「突き抜ける世界都市」について松井市長へ伺います。
松井 京都は、独自でユニークかつとがった才能を持つ人が各分野にいて、全体ではお互いに許容する包摂性があり、自分流をおかけでノスタルジーに浸りましたが、町家を保存し居住する外国人の存在もあっておかないと少し気の毒な気がします。
京都独自の観光政策に挑戦
植村 山田さんは課題解決の提案をされました。

山田 まず、宿泊税は大幅に上げていいと思います。
松井 思い切って宿泊税を上げなさいとの審議会答申も出ました。ほかにも課題は山積しており、景観規制も議論が必要です。
山田 市条例で可能とも考えますが、財産権との兼ね合いがいつも問題になりますね。でも、権利意識が強いヨーロッパにもかなり厳しい規制が存在しますが。
松井 日本と異なり、外観規制のための財産権侵害の基本合意があるのです。京都は、公益とのバランスを取りながら都市トータルとしての価値を考え、法律と条例を整えていく独自方式のチャレンジを進めたいと考えています。
井上 場の空気を読んで自己主張を飲み込む日本人の民族性は「和をもって貴しとなす」とされますが、いったん地権者の立場になれば豹変するように私は感じます。日本が世界的建築家を輩出したのは、建て主が全体の調和より、私我を重んじるせいでは。守るべき建築文化はなかったのですね。第2次大戦時、イタリヤはローマ空襲の翌日に降伏を決定しましたが、東京は初空襲から3年以上持ちこたえました。都市景観保存や建物の資産価値の考え方についてベネチアやフィレンツェと勉強会を開くことも有意義かもしれません。

京都市民の納得感を大切に

植村 山田さんから、富裕層ビジネスを推進して若者に還元してはどうかとお話がありました。
松井 国際日本文化研究センターの故河合雄先生は、京都は文化遺産だけにあぐらをかいてはいけなとおっしゃいましたが、観光客が京都に住みたくなるような受け入れ方の実現が欠かせません。また、価値に応じた適正な価格設定をしていけば、富裕層を含めた観光客が京都の経済に貢献していると納得感が

得られるようになり、市民生活と両立させることにつながります。良心的な外資がいわゆる悪貨に駆逐されないような規制の在り方も追求していきます。

植村 これからは質問コーナーです。会場の皆さまから頂きました。文化都市として、今後の文化庁との連携について。
松井 文化庁はせっかく来てくれた強力な援軍ですので、徹底的に応援しなければいけません。まずは諸外国と比べてあまりに少ない同行予算の増が必要ですね。

植村 京都の人は相手を傷つけないように遠回しに言いますが、それは、京都文化の中で育ったからなのか、それとも京都人のつつましい気性が京都文化を育てたからなのか。
井上 遠回しの言い方は、相手を傷つけないどころか、余計に傷つけている場合もあります。弁護士に聞くと、京都人のほめ殺しはハラスメントには該当しないそうです。ならば京都風言い回しを全国化する価値があるかもしれませんね。京都に限らず「能あるタカは爪を隠す」「出るくいは打たれる」などの格言が示す日本の民族性が行きわたっているようにも感じます。

植村 時計に造詣が深い山田さんへ。京都は、クォーツ式ではなく、機械式時計のような雰囲気がお上手ですね。
山田 電子部品がダメになったらお手上げのクォーツ式と違い、機械式は全ての部品を金属などから削り出せるため、壊れてもほぼ永久に修理できます。また、機械は一個一個に個性があり、誤差も経年劣化もそれぞれ違います。3千万円の機械式時計の時刻を500円のクォーツ式時計で合わせる人もいるように、機械式は単に時間を知るための道具ではありません。そこには合理性だけにとどまらない、長い歴史に裏付けられた奥深い価値がある。その点で、たしかに京都の街に似ていますね。

植村 松井市長からあったように、それぞれがユニークで突き抜ける才能が全体としてお互いに許容されている話に通じますね。今日はありがとうございました。

